

月刊 笑

vol. 19

2025年6月25日発行



陽光園東館 介護部長

大福

約3年前に社会福祉法人千寿会に仲間入りした猫の大福さん。陽光園東館での日々の暮らしは、どのようなものなのでしょう。最近介護部長に任命された大福さんに、話をお聞きました。

● 陽光園東館に来たきっかけを教えてください。

車の走る道路に迷い込んでうろうろしていたところを、小規模多機能みんなの家の職員さんに保護してもらったのです。みんなの家で数日過ごしたあと、陽光園東館に連れてきてもらいました。ただ、猫や犬が苦手な利用者様がいるかもしれないため、まずは様子見として1日ほどお邪魔させてもらうことに。すると、思った以上にみんなに可愛いがってもらえました。その後職員さんたちが話し合ってくれて、「大福はここに住んで良い」ということになり、とても嬉しく思ったことを今でも覚えています。

● 利用者様や職員さんたちとは、どのように関わっていますか。

私はあまり人見知りしない性格なので、面会に来たご家族様を進んでお出迎えしています。近寄っていくと、みなさんととても喜んでくれますね。他にもワークキャンプで来てくれた小学生と一緒に遊んだり、歯科医師の先生に写真を撮ってもらったり、役場の調査員さんからハグを求められたり。いろいろな人との交流に毎日ワクワクしています。最初は「猫は嫌いだ」と言っていた利用者様が、「あれ、大福はどこにいるの?」と家族の一員のよ

うに接してもらえたときは、喜びもひとしおでした。

● 「看取りケア」が得意だと聞きました。どういったケアをされているのですか。

毎日床に座って過ごしていらっしゃる、穏やかで優しい利用者様がいました。「大福、おばあちゃんを見守ってね」と面会に来たご家族様から言われていたため、その方に寄り添って寝ることで、穏やかな時間を過ごしてもらえるようにしていました。ある晩、利用者様が急に立ち上がって、びっくりしたときがあります。転倒し骨折されては大変だと、夜勤の職員さんと呼びに行って部屋まで来てもらいました。なんとか事故を未然に防ぐことができ、そして「大福、よくやった」と職員さんたちにも褒めてもらい、とても誇らしい気持ちになりました。

● 陽光園東館での大切な役割について教えてください。

理事長から介護部長という大任を仰せつかり、身の引き締まる思いです。これからも多くの人たちから「いつも一緒にいてくれて、ありがとう」と言ってもらえるように、精一杯自分らしく過ごしていきたいと思います。陽光園東館が、笑顔と癒しの空間であり続けますように。

理事長をはじめ、多くの方々から愛されている大福さん。今後も周囲と穏やかにつながりながら、日々の暮らしを見守っていきます。



陽光園本館 癒やし犬

ビッグ

陽光園本館で、癒し犬として活躍しているビッグさん。どのようなきさつで陽光園にやってきて、どのような日々を過ごしているのでしょうか。利用者様や職員との日々のふれあいに迫ります。

● 陽光園本館に来たきっかけを教えてください。

僕は2022年、飼い主さんが105歳で亡くなってしまったのを機に陽光園にやってきました。本当は老犬ホームに行く予定だったところを、理事長が引き取ってくれました。皆さんがとても温かく迎え入れてくれたから、あまり不安は感じなかったですね。陽光園に来て一番嬉しかったのは広い中庭！飼い主さんとは高齢だったからあまり散歩ができなかったけれど、陽光園に来てからは毎日走りまわって遊んでいます。陽光園にはすぐになじんだけれど、先輩猫の大福さんと初めて会ったときは緊張しました……。体は僕の方がずっと大きいのに、力関係は大福さんの方がずっと強いから、最近は程よい距離を保っています。

● 利用者様や職員さんたちとは、どのように関わっていますか。

理事長は毎朝出勤してくると、僕に声をかけてくれます。そのほかにも、高森まゆみさん、鎌田麻衣さん、渡邊一史さん、本梅章二郎さんには特別にお世話になっています。高森さんが出勤してきたときは、駐車場に車を停める音ですぐに「高森さんが来た!」と、嬉しくていつも吠えてしまう。それから、渡邊さんに体を洗ってもらうのはとっ

ても気持ちいい。

僕は12歳のおじいちゃん犬だけど、食欲はまだまだ若い犬に負けないくらい旺盛。ときどきフードにジャーキーが混じっていると嬉しいけれど、すぐに太ってしまうから我慢、我慢。太りすぎると足腰に負担がかかってしまうのです。職員さんたちは、僕の健康にもとても気を遣ってくれています。皆さん、いつもありがとう!

利用者様の中には、僕が子犬の頃からよく知っている方もいます。お昼ごはんのあとに必ず僕のところに来て、お話ししてくれるのは毎日の楽しみ。僕はしっぽをあまり振らないけれど、大好きな利用者様や職員さんと一緒にいると、つつい顔がゆるみがち。僕が「でれん」とした顔をしていたら、それはリラックスしている証拠。中庭で僕が遊んでいる姿をお部屋から見ている利用者様にも、ちゃんと気づいているからね。いつも気にかけてくれてありがとう!

● 陽光園本館では今後どのように過ごしていきたいですか。

飼い主さんが亡くなってしまったときはすごく悲しかったけれど、陽光園に來られて本当によかったと思っています。これからも癒し犬として、皆さんとたくさん触れ合えたら嬉しいな。面会のご家族様や工事に入る業者さんには吠えてしまうこともある僕だけど、末長くよろしく願います!

利用者様や職員に愛され、陽光園のかけがえのない一員となったビッグさん。これからもその愛らしい姿で、皆に笑顔と癒やしを届け続けてくれるでしょう。



松本さんの リーダーシップ論

常に業務の段取りを見据え、不測の事態にも動じない冷静さを併せ持つ松本さん。自身のペースを保ちつつ、周囲の状況にも細やかに目を配り、チーム全体の調和を大切にしています。利用者様やご家族様、そしてともに働く仲間たちの声に真摯に耳を傾け、一つ一つの課題に対して慎重に最善の道を探る、松本さんの仕事ぶりをご紹介します。

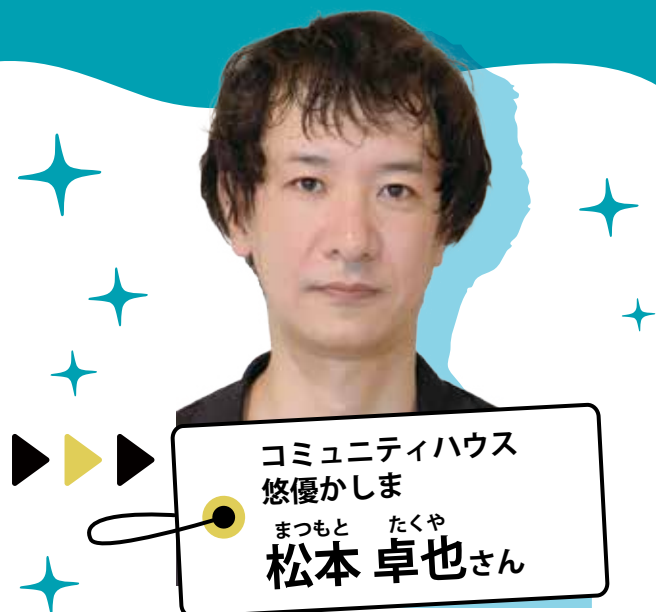
ペースを保つことのメリット

普段から業務の段取りを考え、時間内に完遂するよう取り組むことで、何かトラブルが起きたときに動じることなく対応できます。また、他の職員の進捗にも配慮し、チーム全体の業務効率を鑑みて仕事のスピードを柔軟に調整することもあります。

良い結論に導くために大切にしていること

さまざまな意見に耳を傾け、利用者様にとっての最適解を追求する

自分一人で決めるのではなく、周囲の意見も取り入れながら判断することを大切にしています。利用者様が望まれること、そして私たちがサポートすべきことは何かを考え、ご本人の話や職員からの意見を参考にしながら最善の行動を検討します。利用者様から直接お話を伺えないときは、ご家族様のお話や生活歴などから状況を把握することが可能です。また、職員から寄せられた貴重な意見に対しては、私自身の考えも率直にその場で伝え、できるだけ良い結論を出せるように努めています。



コミュニティハウス
悠優かしま
まつもと たくや
松本 卓也さん

リーダーとしての コミュニケーションにおける工夫

ミーティングでの発言や議論、 雑談から意見を集める

職員とはミーティングを行っています。中にはその場で発言できない人もいます。その場合は、こちらから提案し、議論を進めてもらうように心がけています。また、日頃の何気ない会話から、現場のリアルな声や意見を拾い上げることも。そうして得られた提案をもとに、意見が採用されなかった方も納得できる折衷案や、施設や利用者様にとって最適な結論を出します。

慎重に結論を出す姿勢による効果

私の慎重な姿勢から、些細なことでも真剣に向き合い、悩んでいることが周囲に伝わっているのではないのでしょうか。どんなに些細な意見でも軽んじることなく、大きな問題と同様に真摯に対応し、慎重に判断することで、意見を出した人に安心感を与えられたらと思います。



▲ご利用者とのコミュニケーション



▲食事の配膳中

石井さんの介護術

利用者様の心を掴む秘訣

優しい声と柔らかな物腰が印象的な石井さん。
千寿会での約1年を通して、利用者様と心を通わせる方法を探し続けてきました。
入職当初の試行錯誤や胸に刻んだ教訓など、その実体験からは質の高いケアに向けたヒントが見えてきます。

信頼を得るための心がけ

それぞれの感情に寄り添った言葉かけ

お一人おひとりの表情に寄り添ったお声かけを心がけています。例えば配膳中、「隣の人の分がまだだから」と、先に箸をつけるのを遠慮される方がいます。そうしたときは、「皆さんの分もすぐお持ちします。どうぞ先に召し上がってくださいね」と声をかけ、安心して召し上がっていただけるようにしています。また、やむを得ず介助をお待たせしなければならないときは、「すみません。〇〇が終わり次第すぐ伺いますね」と順を追ってご案内します。戻った後の謝罪も含め、細やかな言葉かけを大切にしています。

入職当初にぶつかった壁

「伝わる表現」が変えたトイレ介助

特に難しさを感じたのは、認知症の利用者様との意思疎通でした。トイレの誘導では、「座ってください」という言葉だけでは、どのように動けば良いのか伝わらないことも。先輩職員の丁寧な指導と併せて工夫したのは、「ここを掴んで立ちましょう」「こちら側にお尻を向けますよ」といった具体的な言葉とともに、体を動かす方向を指で差し示すようにしました。すると、「この表現ならわかっていただける」と徐々に手応えを感じ、スムーズに意思疎通ができるようになりました。

最後に

年齢を重ねてからこの仕事に就き、今こうして働ける場所と健康な体があることに日々感謝しながら、今後も勤務に励んでまいります。どうぞよろしくお願いたします。



特別養護老人ホーム
陽光園東館

いしい あけみ

石井 明美さん



入職1年間で特に印象深いエピソード

利用者様からの 「ごめんね」に溢れた悔しさ

入職3か月ほどの頃、少し部屋を離れた箇に利用者様がベッドから転倒してしまったことがありました。夜勤明けの呼び出しコールが重なったタイミングで、自力で車椅子に移ろうとされた際のアクシデントで、幸い怪我はありませんでした。ですが、念のため病院へお連れすることとなり深い自責の念に駆られました。さらに、痛い思いをされたはずの利用者様ご本人から、逆に「ごめんね」と労いの言葉をかけられた瞬間、申し訳なさや悔しさで胸が締め付けられる思いでした。当時は「少し待っていてね」と声をかけてからその場を離れましたが、認知症のためか、うまく伝わっていなかったのかもしれません。この経験から、他の職員への情報共有と連携を一層密に、そして着実に行うことを徹底しています。

意識しているコミュニケーションのポイント

お名前を呼び、目を見て話す

利用者様のお名前を丁寧にお呼びし、しっかりと相手の目を見てお話することです。利用者様からは「名前を呼ばれると、何だか嬉しい」と言ってもらえることもあり、このようなささやかな工夫でも心に届くのだと実感しました。